

# あきしま学びぷらん

## (第2次昭島市生涯学習推進計画)

### 第2次昭島市生涯学習推進計画策定にあたって

一人ひとりがライフスタイルやライフステージの中で、各々に応じた課題を見出し、学び続ける生涯学習活動を通し、生きがいの発見、自己実現を図り、その成果を生かした活動をしていくことで、地域の人と人との顔がつながり、活動が地域に根付いていきます。そうした学習や活動の継続が住んでいるまちへの愛着心を育み、住み続けたい魅力あるまちづくりへと貢献していくものになるよう、平成15年3月に策定された「ともにひらき、ともに創る、あきしま学びぷらん(昭島市生涯学習推進計画)」を省察し、第2次昭島市生涯学習推進計画を策定しました。

### 昭島市の生涯学習を取りまく現状

#### ○教育基本法から見る生涯学習の理念

生涯学習とは、自己の充実や生活の向上のために、人生の各段階での課題や必要に応じて、あらゆる場所、時間、方法により学習者が自発的に行う自由で広範な学習を意味しています。学校や社会の中で行われる意図的・組織的な活動のみならず、スポーツ、文化芸術、趣味、レクリエーション、ボランティアなど幅広く多様です。

さらに、意図的ではない学習、乳幼児が家庭でのコミュニケーションを通して言葉や生活習慣、社会の規範を学ぶことや、社会との関わりを通して「学習」という意識がなくても結果的に自身の生き方や考え、態度に有意義な変化をもたらすことも生涯学習をした成果であるということができます。

#### ○国や都が推進している事業

- ・学校支援地域本部事業(国)
- ・学校支援ボランティア推進協議会事業(都)
- ・持続発展教育(ESD)
- ・消費者教育
- ・防災教育 など

#### ○昭島市の生涯学習を取りまく10年のあゆみ

平成15年3月	「あきしま学びぷらん」策定
平成17年5月	「昭島市コミュニティ構想」策定
平成19年3月	昭島市ボランティア指針 「市民がかかわるまちづくりを求めて」
平成22年3月	「昭島市教育振興基本計画」策定
平成23年3月	「市民連携のための指針」策定
平成23年5月	「第五次昭島市総合基本計画」策定
平成24年3月	「昭島市社会教育複合施設建設計画基本方針・基本計画」策定

#### 計画の位置付け

本計画は、国や都の動向及び第1次計画から現在に至るまでの本市における生涯学習のあゆみを踏まえ、「ともにつくる 未来につなぐ 元気都市 あきしま」を将来都市像とする第五次昭島市総合基本計画に基づき、生涯学習を「市民の生涯にわたる学習」として捉え、「あらゆる機会に、あらゆる場所で学習することができ、その成果を適切に生かすことができる生涯学習社会」の実現に向けて、生涯学習の内容が「生活の中の学習」としても多様な分野へと広がるとともに一人ひとりに密着していくことをめざします。

このような状況を踏まえ、第2次昭島市生涯学習推進計画では、平成15年3月策定の第1次計画の基本的な考え方を生かし、「市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習」を継続的な目標とします。生涯学習推進のために「人・場所・時間」の確保充実を図り、継続した学びを支援します。

## 施策の体系

### 施策の目標

#### (1)「学び」の基礎をつくる

##### 施策の方向

- ① 小学校区を中心とした活動
- ② 地域の中での活動
- ③ 個人の学びの充実
- ④ 「学び」を見つける

#### (2)「学び」の場を確保する

##### 施策の方向

- ① 市の施設の整備、充実
- ② 使いやすい施設に向けて
- ③ 社会教育複合施設の整備と活用

#### (3)「学び」の機会を提供する

##### 施策の方向

- ① 公民館による「学び」の機会の提供
- ② 多様な学習内容の提供
- ③ 情報の提供
- ④ 相談機能の充実

#### (4)「学び」を支援する

##### 施策の方向

- ① 生涯学習相談のシステムづくり
- ② 人材育成と活用、ボランティアの活用
- ③ 学習成果の活用

### 具体的な取組み(施策の方向に対応)

4つの学習や活動のニーズを提示しながら、現在どのような施策があるのかを踏まえ、今後の施策の方向を示しています。

- ① ・連携の推進 ・人材の確保 ・情報の収集と提供
- ② ・紹介 ・支援 ・育成
- ③ ・紹介 ・支援 ・育成
- ④ ・紹介 ・支援 ・育成

生涯学習を推進するにあたり、学習や活動の「場所」の確保は重要であるとらえ、現在の状況を踏まえつつ、今後の方向性を示していきます。

- ① ・整備、充実 ・提供 ・支援 ・協働
- ② ・整備 ・工夫 ・提供 ・協働 ・育成
- ③ ・ユニバーサルデザイン ・市民交流の場 ・施設の柔軟性  
・安全対策 ・環境との調和 ・サービスの提供 ・内外との連携

団体や個人のさまざまな学習や活動のニーズに応えるため、市でも積極的に学びの機会を提供していきます。

- ① ・講座の充実 ・情報提供の充実
- ② ・講座の充実 ・情報提供の充実 ・情報内容の充実
- ③ ・市の施設での情報提供 ・生涯学習情報誌の発行  
・「広報あきしま」での情報提供  
・昭島市公式ホームページでの情報提供
- ④ ・相談窓口の充実 ・相談情報の提供

「学び」の継続、「学び」を見つけ出す、成果を期待できる場の提供など、「学び」の支援者としての行政の役割の強化、発展の方向を示しています。

- ① ・生涯学習情報センターとしての機能(第1段階)  
・ネットワークの構築(第2段階)
- ② ・地域の実情を把握する ・地域の人材を育成する  
・ボランティア活動の推進を図る  
・生涯学習援助協力者のシステムを構築する
- ③ ・学習成果の活用を提供する  
・支援者集団を形成する



あきしま学びぷらん(第2次昭島市生涯学習推進計画)【概要版】

平成25年3月

編集・発行 昭島市教育委員会 生涯学習部 社会教育課

〒196-8511 昭島市田中町一丁目17番1号 電話 042-544-5111

FAX 042-541-4337



# 第五次昭島市総合基本計画

# 第2次昭島市生涯学習推進計画

## 基本理念

誰もが、自分の意思で自由に学ぶことができる環境が整い、地域のつながりときずなを実感し、豊かな人生をおくっています。

## 基本目標

### 市民相互と地域のつながりを育てる生涯学習

- (1) 「学び」の基礎をつくる
- (2) 「学び」の場を確保する
- (3) 「学び」の機会を提供する
- (4) 「学び」を支援する



## 生涯学習推進のために

### すべての人が、いつでも、どこでも

多種多様なニーズに応じた「学び」をスタートさせることができるよう、既存の団体の紹介や情報提供を行い、団体の活動に必要な支援も行います。また、個人の学びを充実させるために各種講座の情報提供を行うなど「学び」の基礎をつくるサポートをします。

### わかりやすく、利用しやすい

市内には多くの施設があります。学びの場となる施設の利用しやすさは、継続的な学びにもつながります。団体や個人の「学び」の場を確保するために、どこで、なにができるかなど、各施設の提供や、だれもが安心して利用できるように施設の整備に努めます。また、ボランティアや活動団体との連携を図り、親しみやすく、集いやすい場になるような施設の運営に努めます。

### どこで、だれが、なにを、どのように、学んでいくか

市内では様々な講座、講演会、イベントなどが行われています。「学び」の機会を提供するために、相談機能を充実させ、必要な人に、必要な情報を提供します。また、活動の成果を地域の中で活かしていくことは、学びを深め、質を高めることにつながります。生涯学習相談のシステムをつくり、学びを継続する支援、学びをさらに見つけ出す支援など、団体や個人の「学び」を支援することで学びの循環をつくっていきます。

## 「学び」とは

ここでいう「学び」とは「生涯学習」そのもののことをいいます。「生涯学習」が生涯にわたる学習であり、生活の中の学習であり、さらに活動することで学び合うコミュニティが形成されていくこと、地域の「きずな」が培われることすべてを包括しています。

生涯学習は「楽しい」ものであることが大切です。「学び」のもつ「楽しさ」を味わうことが「学び」の継続につながっていきます。

「学び」の「楽しさ」は、まず自身が自分の向上を実感できること、そして、手に手を組んで協力することの楽しさを味わうこと、人と関わる活動が面白いと感じること、やりがいを感じることです。

「学び」の「楽しさ」から、だれもが心豊かで充実した生活を送り、それが地域の「きずな」や活性化への導きとなることこそ、本市で推進しようとしている生涯学習であるといえます。

## ■学習成果の活用事例

市民大学を修了した方たちが、まちづくりや地域社会の活性化に寄与することを目的に「市民大学フォーラム」を開設しています。講座の企画運営や修了生が講師となり発表会を開催しています。



市の施設で活動している高齢者の方を講師に迎え、「土曜地域ふれあい事業」として小・中学生に陶芸の楽しさを伝えています。



文化財ボランティアガイド養成講座を開講し、文化財めぐりの説明員補助や郷土資料室展示解説ボランティアとしての活躍が期待されています。



## 継続した学びを支援するために

個人の「学び」だけでなく、各種団体や地域コミュニティ活動、ボランティア活動等の輪や、新たなつながりの中での「学び」が継続したものになるよう、市民の「学び」に対するニーズに柔軟に対応していきます。また、その都度事業の検証を行い、必要に応じて計画の見直しをしていくことで、常に時代の流れや課題を意識し、より豊かに、市民の「学び」の継続から市民が支え合えるまちづくりへと発展できるように取り組んでいきます。